

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム 愛心（北棟・南棟）		
所在地	〒812-0858 福岡県福岡市博多区月隈6丁目16番11-1号 (電話) 092-503-9008		
自己評価作成日	平成 29 年 9 月 20 日	評価結果確定日	平成 29 年 11 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

介護理念「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」をスタッフが理解し実践している。施設は純和風な作りをしており、居室は畳部屋で高齢者の方が心地よく生活できるよう環境を整えている。スタッフは、ご利用者様本位のサービスを提供することを目標としており、日常生活においてはご利用者様の個々のペースを把握し、起床、食事、入浴時間においては固定せず、可能な限り希望通りのサービスが提供できるように配慮している。また、ご利用者様が退屈しないようにレクリエーション、行事、外出支援に力を入れており、ご家族をお招きしての感謝の日会や敬老会など実施し、ホームでの生活が楽しいものとなるよう取り組んでいる。その他、地域交流にも力を入れており、毎年開催している夏祭りや定期的で開催しているサロンでは、地域の方にお越しいただいて、地域に貢献できる施設を目指している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 29 年 10 月 11 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、運営理念にうたわれている「第二の我が家」を目指しており、管理者、職員の資質の高さとお互いの連携と調和が疑似家族のように親しみやすい。利用者との垣根がないアットホームな雰囲気を出している。居室が純和風の造りである点は、利用者が生きた昭和の時代を感じさせる。文化的な活動も盛んで、陶芸、生け花、体操、書道教室も定期的に行われている。2ヶ月に一度開催される“まごころサロン”での演奏会や、シャンソンの歌唱も行われている。理念にあげられている“美しさ”への利用者、職員の具体的な取り組みがあり、目標を立てて、それに向かって進む強化月間の設定等斬新的な取り組みが行われている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【1 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の介護理念を掲げている。スタッフは毎日申し送り時に介護理念を暗唱している。また、理念を元に昨日実施した入居者様との関わりを報告してもらっている。スタッフ同士良い刺激となっており、理念を意識しながら日常業務に取り組んでいる。	“楽しく、美しく、いつまでも、地域と共に”と言う事業所独自の理念を有している。毎朝申し送り時に前日の介護現場で理念を具体化し実践できたかについて職員がお互いに検証しあい、モチベーションを高めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	法人として毎年開催する夏祭りや地域の施設や病院と協力して定期的に開催しているサロンでは沢山の地域の方にお越しいただいている。敬老会には近隣の保育園や幼稚園の園児の来訪があり歌や遊戯などでご利用者様と交流している。また、法人として地域の運動会や消防団に参加している。	地域の清掃活動、消防団活動、保育園、中学校との交流が活発である。法人全体で行われる夏祭りには大勢の地域住民が集まる。また、二ヶ月に一度開催される“まごころサロン”では、ボランティア演奏会、シャンソン、法律相談、介護相談が行われている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談できる場を設けている。また、地域の施設や病院と協力して開催しているサロンでも相談を行えるようコーナーを設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の活動や取組、ご利用者様の状況について報告している。その中で、委員の方からのご意見やアドバイスをいただき、グループホームのサービスの向上へ繋げているが、ご家族からの意見が少ないため発言しやすい雰囲気作りが必要だと感じている。	運営推進会議は二ヶ月に一度開催され、サービスの実際を報告し、会議で出された意見をサービスの向上に活かしている。具体例として、男性職員の増加の意見が出され、男性職員の増員がなされた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。事業所の状況を報告したり、施設の夏祭りや敬老会にも出席いただき日頃から交流を図っている。また、区のグループホーム交流会へ参加した際は、状況報告など意見交換を行うようしている。	区のグループホーム交流会に参加し、概ね三ヶ月に一度の頻度で、行政職員三名の参加を得て行政との意見交換を行っている。その他、必要に応じて連絡、相談を行っている。また、法人の行事にも行政担当者の参加を促している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針として身体拘束は行っていない。また、身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフが閲覧できるようにしている。施設内にて定期的に職員研修も行われており身体拘束について学ぶ場を設けている。日中、玄関の施錠は行っていない。居室はご本人様やご家族様の要望がある場合、説明をした上でその人に応じた対応をしている。	法人全体で身体拘束廃止委員会を立ち上げて二ヶ月に一度の頻度で身体拘束をしないケアについて学んでいる。委員会での内容は事業所に持ち帰って職員間で意識を高めあっている。内部、外部の研修も行われ、記録もファイルしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	全スタッフは施設内の職員研修にて高齢者虐待防止について学ぶことができる。万が一、スタッフが虐待へと繋がる対応を発見した場合は迅速に対応している。また、グループホーム内で言葉遣いの研修も行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフは施設内の研修において成年後見制度・日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けている。また、家族からの希望があれば、申請手続きに関して支援、協力をしている。	制度に関しては、利用開始時に説明している。利用者の複数が成年後見制度を利用しており、内部、外部の研修も行われ、伝達研修も実施されている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間をとって説明を行っており、説明不足がないように配慮している。また、不安や疑問などがないか確認している。長期にわたる利用での不安や料金改定の説明での疑問は、ご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な担当者会議・運営推進会議などにて、ご本人様やご家族様から意見を聞く機会を設けている。また、面会時においてもコミュニケーションを取りながら要望などがないかお聞きしている。	利用者、家族と管理者、職員とは疑似家族に近い関係で、日常的に意見や思いを伝える事ができる。お化粧、ボディソープ等の美容から、食事では本人の希望に沿った食材に替える等、多分野にわたり改善事例が見られる。また家族の提案で連絡ノートを導入し活用している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで職員が意見を述べる場を設けている。その他、希望に応じて意見を聞く機会を設け日頃より業務の改善を図っている。また、年に一度職員に対し、アンケートを実施し意見や提案を聞く場を設けている。	二、三ヶ月に一度カンファランスが開催され意見聴取がなされている。職員間のコミュニケーションも良好で、現場サイドで解決できない事案については適時集約して管理者に意見具申がなされている。事例として、食卓や椅子の高低から、ドライやたこ焼き会の実施等あげられる。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と代表者が個別に面接する機会を設けている。日頃から、職員がやりがいをもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、個別面談にて決定しており年齢、性別などの制限は設けていない。また、スタッフの一人ひとりの能力、経験に合わせ積極的に外部研修に参加する機会を設けている。	職員の年齢は幅広く、定年は60歳であるが、体力と気力があれば、1年更新で延長される。各種手当と昇給もある。福祉関係の資格取得を支援するため法人全体で勉強会の立ち上げが予定されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内研修にて、人権・接遇等に関する勉強会を定期的で開催している。また、日頃よりご利用者様に対する言葉遣い等について気を配るよう促している。	外部、内部の研修の参加と伝達研修がおこなわれている。仕事上で参加できない職員に対しては資料配布がなされている。年に一度施設長による“言葉遣い”の研修が実施され、利用者、家族に対する人権を尊重する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員勉強会や施設内で委員会を開催している。職員の能力や経験に合わせてグループホーム内での係りや委員会の担当を任せている。また、外部研修に参加し、スキルアップの機会を提供している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修や区のグループホームの交流会などへ積極的に参加させ同業者と交流する機会を設けている。また、要望があれば他施設からの実習など受け入れている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、ご本人様より希望や不安についてお聞きしている。また、不安については特に注意し声かけ方法など配慮している。サービスを安心して開始していただけるよう信頼関係構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族様と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い、信頼関係の構築に努めるとともに、当施設がどのような施設であるかを理解していただくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様やご家族様との面談の中でどのような生活を望んでいるかを把握するよう努めている。その中で、当施設で提供可能なサービスについて説明し、納得されたうえでご入居いただいている。ご本人様やご家族様の希望するサービスが提供できない場合は、他の事業所を紹介する場合がある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご本人様の力を借りながら、食器拭きや野菜切り、盛り付けをお願いし共に生活している。スタッフはご本人様の思いを尊重しながら一人ひとりに合った個々の力を大切に支援するよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感謝の日会や敬老会等の行事時に、ご家族様を招待したり、可能な場合はご家族様に外出支援への参加をお願いしている。面会時や毎月担当職員からご家族様へご利用者様の近況報告や写真を送り、ご家族様との情報共有に努めている。携帯電話をお持ちの方は操作の支援を、手紙をいただいた際は、返信の支援を行うようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や行きつけのスーパーなどについて、ご本人様やご家族様の希望を優先している。また、馴染みの場所への外出の希望等があれば実現できるように対応している。	職員は、利用者の馴染みの人や場所を把握しており、行きつけの美容院、病院等へのサポートから、年賀状、手紙への支援を行っている。隣接する施設を知り合い同士が相互訪問する支援も行われている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、日頃からご利用者様の人間関係を把握し、ご利用者様間のトラブルを未然に防ぐように努めている。また、レクリエーションなどを通してご利用者様同士で応援などの声かけが行えるような雰囲気作りをしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のために退所された方については、スタッフがお見舞いに行ったりして交流を続けている。また、退所された方から併設の特養への入所希望があればご案内している。特養へ入所された方については、仲の良かったご利用者様とスタッフが特養を尋ねたりして交流を図っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフは、日頃よりご本人様やご家族様と会話の中で希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。また、外出の希望がある場合は、ご家族様と相談し、個別支援にて対応している。把握が困難な方の場合には、ご家族様からの情報や入居前のサービス事業所からも情報を得ている。	利用者を常時見守っており、表情、動きに変化がある時には、必ず寄り添って思いや意思を聞き出している。また、職員がお互いに情報を交換し、共有して利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフは、ご本人様やご家族様からの情報、ご利用者様同士の会話を参考にすると共に、日頃よりご利用者様一人ひとりの生活歴や趣味・好み等の情報収集に努めサービスの向上に努めている。また、スタッフ同士、情報共有に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは日頃より一人ひとりの生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細かな表情を気にかけて様子観察を行い、体調悪化を未然に防ぐよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、計画作成担当や担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに担当者会議にてご本人様やご家族様の意見を受け、ご本人様が安全にかつ安心して希望する生活が送れるための介護計画の作成に努めている。	利用者の担当職員がアセスメントを行う。管理者と計画作成担当者、職員とでカンファレンスを開催し介護計画を作成している。事前に本人と家族の希望を聞き、計画に反映させている。サービス担当者会議にて本人、家族に説明を行っている。初回は3ヶ月後に見直し、その後は6ヶ月ごと、利用者の状態変化があった場合にも計画の見直しを行っている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、キーワードを基に日常の様子など細かい点について、ご本人様の言葉も記入している。また、記録だけでは伝わらない点については、毎日申し送りを行い、口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い、解決するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に面会時間を設けているが、時間外の面会についても柔軟に対応している。散歩や買物、外食などの外出支援や年一回の施設全体のバスハイクについてはスタッフの勤務の調整をし定期的に行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の馴染みの病院や薬局等把握し、入居後も引き続き利用できるように支援している。入居したことにより地域との関係が途切れないように配慮している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご本人様やご家族様に意向を伺い、希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながらご利用者様の健康の維持を図っている。また、訪問歯科回診も行っている。	入居時に本人、家族に希望を聞き、これまでのかかりつけ医を受診している。希望があれば、協力医療機関の往診を案内している。家族が受診に付き添う場合は、最近の状況を文章にまとめ、医療機関へ情報提供行っている。職員が付き添う場合は受診の様子や服薬の変更など家族へ報告を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配置されていないが、日々の状態で疑問に感じた場合や急変時の対応・感染症の予防など、必要な場合は併設の特養の看護師に相談し助言を受けている。また、スタッフは訪問看護師と連携をとり一人ひとりの健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様が入院した場合、定期的に病院を訪れ看護師やソーシャルワーカーから話を聞き、治療の経過やご利用者様の状況などについて情報を得ている。また、スタッフは日頃の受診付添の中から医師や看護師との関係作りを努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学や入居希望の問い合わせ・入居契約時に施設で出来る事と出来ない事についてご本人様やご家族様に必ず説明し納得していただいている。重度化した場合は、主治医に相談し、連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。万が一、当施設で生活が続けられなくなった場合、他施設や病院と連携をとり受け入れ先を探している。	重度化や終末期のあり方について事業所の方針があり、契約書に明文化されている。医療行為や車椅子利用となった場合には退去となるため、入居契約時に説明を行っている。主治医とは密に連携を取り、担当者会議にて状態を伝え、本人、家族が納得・安心できるよう話し合いを重ね、医療機関や併設の施設の紹介を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各項目でマニュアルを作成している。全スタッフは対応について理解している。施設内にて定期的に研修があり学ぶ場を設けている。また、備品についても点検をするよう心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害対策について施設内にて研修があり学ぶ機会を設けている。また、当グループホームにて火災訓練を実施している。日頃から地域との交流を図っており、災害発生時は協力し合える関係を築いている。	法人で災害マニュアルを作成し、非常時対策委員会を開催している。消防署の協力をえて事業所で夜間帯を想定した避難訓練を年2回行っている。法人の職員3名が地域の消防団員に登録している。法人の協力体制もあり、避難訓練に地域住民への呼びかけは行っていない。事業所内に缶詰、水、米、簡易トイレ、毛布など備蓄している。	災害に備えて、法人の協力のみでなく、地域の人の協力が実際に得られるように日頃からの話し合いを行ったり、一緒に訓練を行うなど実践的な取り組みに期待する。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で声かけなどについて、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。また、スタッフルームにNGワードを提示しており、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。個人の資料はカギのかかるロッカーで保管している。	排泄の失敗があれば、周りに気付かれないよう小さな声で話しかけを行い、利用者のプライバシーに配慮している。家族の来所時には居室で個別に話しを行っている。管理者は内部研修や日々の関りで気になる事ながあれば指導を行い、職員の意識向上に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの想いを引き出すよう努めている。スタッフはオープン・クローズドの質問をしながら、ご本人様が自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に考慮しながら、ご本人様の希望に出来るだけ添えるように心掛けている。また、各場面の担当者を決め、コミュニケーションをとりながら、より細やかな支援がおこなえるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧や身だしなみなどは、居室や別室をご利用していただいている。購入時は、ご本人様の使い慣れた化粧品を使用していただいている。美容室でのカットや髪染が難しい方は、スタッフが支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に野菜を切ったり、盛り付けや片づけ等を行っている。また、季節感を感じていただけるようメニューを工夫したり、個々に合わせたメニューを考え、食べやすさに考慮している。スタッフは、ご利用者様と同じテーブルと一緒に食事をしている。	利用者と職員と一緒に野菜を切ったり準備や片付けを行っている。職員で1ヶ月分の献立を立て、利用者の希望を取り入れている。畑で野菜を栽培しており、利用者と一緒に収穫し食卓に出している。	
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が不足しないように、毎食チェックし把握している。不足している場合などは、補助食品やご本人様の好みに合わせ提供するように努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・見守り・介助を行っている。義歯については、就寝前にお預かりし洗浄を行っている。また、週一回の訪問歯科回診があり、相談しながら口腔内の清潔に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣を把握し、ご利用者様がストレスがなく排泄が行えるように声かけ・見守り・介助をしている。介助の際は、出来るだけ残存機能を活かし、自立に向けた支援を行っている。	職員は利用者の排泄パターンを把握し、時間を決めて声かけを行っている、尿意のない利用者については排泄チェック表を確認して誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。失禁が増えれば、職員で会議を開催し、使用するパットの種類や時間帯について協議している。担当者会議にて家族に説明を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、スタッフ全員で確認をしている。便秘が続かないよう水や牛乳などの水分を多めに接種していただくよう声かけしている。また、便秘が続いた場合は、主治医に相談するなどして改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の体調を考慮しながら、時間帯など希望に合わせて入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法や時間帯、スタッフの交代など工夫し入浴していただけるよう努めている。	毎日入れるよう入浴日を設定している。入浴を拒否する利用者に対しては、声かけの方法や時間帯を変えて一人一人に合わせた入浴支援を行っている。菖蒲やゆずなど季節の湯を用意したり、利用者の好きな音楽をかけてリラックスできるように工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調に考慮するとともに、希望に添って休憩していただいている。夜間不眠の訴えがあった場合は、傾聴を行い一緒に過ごしたり、温かい飲み物を提供するなどし対応している。また、夜間の不眠が続くご本人様の不調につながる場合は、主治医と連携をとり支援している。		
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送りを行っている。また、変更の情報も共有するよう努めている。体調の変化には十分注意し、変化がみられた場合は主治医に相談し、薬の調整などを行っている。また、薬に対して拒否がある場合は、ゼリーなど使用し服用していただいている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材切り・盛り付け・片づけなどの料理や外食・買物・散歩・歌など毎日の生活が退屈にならないように配慮している。また、体操・生花・陶芸などの教室を催し趣味活動を続けていただけよう支援している。役割として全体で使用するタオルたたみなども取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的には花見等のバスハイクに外出している。また、買物や散歩・外食などの個別支援を行っている。また、希望があれば猫カフェにも出掛けて動物とのふれあいも行っている。年に一回の遠方へのバスハイクなどは、ご家族の協力を得て一緒に外出もしている。	外出強化月間を年2回設定して、担当職員が利用者の希望を聞き、外食やドライブ、買い物などの希望が叶うよう個別に支援している。事業所で初詣や季節の花見に出かけている。法人全体で年1回バスハイクで県外へ出かけている。利用者とその家族も参加している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお預かりしているが、ご本人様が希望された場合は、ご家族に紛失などの危険がある事の説明を十分行って了解を得たうえでお金を所持していただいている。買物の際などはご自分でお支払いをしていただくよう支援している。お金の認識が難しい方は、事故の危険もありご家族様に説明しお預かりするようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族様やご友人様に電話をかけていただいている。また、携帯電話をご使用の方については使用時支援している。年始には年賀状を出していただくよう支援しているが、年始以外にも季節の折々に手紙を出していただくよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイに季節感を取り入れて心地よく過ごしていただけるよう配慮している。また、テレビやCDの音量や室温、光など細やかな部分についてもストレスとならないように気を配っている。トイレは共用で気持ちよく使用できるように清掃にも力を入れている。	リビングには季節の装飾や書道など利用者の作品が飾られている。本棚やピアノがあり、家庭的な雰囲気ですぐ心地よくゆっくりと過ごせるよう配慮されている。テレビの音量や照明の明るさにも気を配っている。共用のトイレは気持ちよく使用できるよう清潔に保たれている。	
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。テレビ前や廊下にソファを置き、日向ぼっこや散歩・談話など仲の良いご利用者同士で過ごしていただけるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具や調度品・仏壇・ご本人様が作った作品を展示したり、趣味の物等取り入れ自由にご自分の部屋を使用していただいている。また、安全面も考慮し安全バーなども設置している。エアコンの風にも配慮し苦手な方は直接あたらないよう配慮している。	利用者の使い慣れたタンス、机などの家具や趣味の本等が持ち込まれている。家族との写真が飾られており、家具の配置は入居前に暮らしていた部屋と同じとなるように家族と話し合い、居心地良く過ごせるよう、配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様一人ひとりの生活スペースを把握し、各々の部屋の表示をしっかり目立つよう表示し、個々の動線上に事故に繋がるものがないように配慮している。また、居室などにおいても事故を未然に防ぐための環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
			○	③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の介護理念を掲げている。スタッフは毎日申し送り時に介護理念を暗唱している。また、理念を元に昨日実施した入居者様との関わりを報告してもらっている。スタッフ同士良い刺激となっており、理念を意識しながら日常業務に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	法人として毎年開催する夏祭りや地域の施設や病院と協力して定期的に開催しているサロンでは沢山の地域の方にお越しいただいている。敬老会には近隣の保育園や幼稚園の園児の来訪があり歌や遊戯などご利用者様と交流している。また、法人として地域の運動会や消防団に参加している。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人として介護相談センターを設け、地域の方が認知症を含めた高齢者介護全般について相談できる場を設けている。また、地域の施設や病院と協力して開催しているサロンでも相談を行えるようコーナーを設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で事業所の活動や取組、ご利用者様の状況について報告している。その中で、委員の方からのご意見やアドバイスをいただき、グループホームのサービスの向上へ繋げているが、ご家族からの意見が少ないため発言しやすい雰囲気作りが必要だと感じている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の委員として地域包括支援センターの方に参加していただいている。事業所の状況を報告したり、施設の夏祭りや敬老会にも出席いただき日頃から交流を図っている。また、区のグループホーム交流会へ参加した際は、状況報告など意見交換を行うようしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の方針として身体拘束は行っていない。身体拘束廃止マニュアルを作成し、スタッフが閲覧できるようにしている。施設内にて定期的に職員研修を行い身体拘束について学ぶ場を設けている。日中、玄関の施錠は行っていないが、酷い混乱時は安全を考慮し施錠対応している。離園行為のある方の対応としてご家族様に説明し居室・浴室と渡り廊下等は鍵をかけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	全スタッフは施設内の職員研修にて高齢者虐待防止について学ぶことができる。万が一、スタッフが虐待へと繋がる対応を発見した場合は迅速に対応している。また、グループホーム内で言葉遣いの研修も行っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全スタッフは施設内の研修において成年後見制度・日常生活自立支援事業について学ぶ機会を設けている。また、家族からの希望があれば、申請手続きに関して支援、協力をしている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項・契約内容について読み合わせを行っている。一項目ずつ十分時間をとって説明を行っており、説明不足がないように配慮している。また、不安や疑問などがないか確認している。長期にわたる利用での不安や料金改定の説明での疑問は、ご家族が納得されるまで説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な担当者会議・運営推進会議などにて、ご本人様やご家族様から意見を聞く機会を設けている。また、面会時においてもコミュニケーションを取りながら要望などがないかお聞きしている。ご家族より要望のあったコミュニケーション機器の使用に関して協力している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで職員が意見を述べる場を設けている。その他、希望に応じて意見を聞く機会を設け日頃より業務の改善を図っている。また、年に一度職員に対し、アンケートを実施し意見や提案を聞く場を設けている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に一度、職員と代表者が個別に面接する機会を設けている。日頃から、職員がやりがいをもって働けるよう、職場環境の整備に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、個別面談にて決定しており年齢、性別などの制限は設けていない。また、スタッフの一人ひとりの能力、経験に合わせ積極的に外部研修に参加する機会を設けている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職場内研修にて、人権・待遇等に関する勉強会を定期的に開催している。また、日頃よりご利用者様に対する言葉遣い等について気を配るよう促している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に職員勉強会や施設内で委員会を開催している。職員の能力や経験に合わせてグループホーム内での係りや委員会の担当を任せている。また、外部研修に参加し、スキルアップの機会を提供している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員を外部研修や区のグループホームの交流会などへ積極的に参加させ同業者と交流する機会を設けている。また、要望があれば他施設からの実習など受け入れている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前には必ず面談を行い、ご本人様より希望や不安についてお聞きしている。また、不安については特に注意し声かけ方法など配慮している。サービスを安心して開始していただけるよう信頼関係構築に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ずご家族様と面談を行い、不安や要望などお聞きしている。ご家族様とよく話し合いを行い、信頼関係の構築に努めるとともに、当施設がどのような施設であるかを理解していただくよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	入居前にご本人様やご家族様との面談の中で どのような生活を望んでいるかを把握するよう 努めている。その中で、当施設で提供可能 なサービスについて説明し、納得されたうえ でご入居いただいている。ご本人様やご家族 様の希望するサービスが提供できない場合 は、他の事業所を紹介する場合がある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	スタッフはご本人様の力を借りながら、食器 拭きや野菜切り、盛り付けをお願いし共に生 活している。スタッフはご本人様の思いを尊 重しながら一人ひとりに合った個々の力を大 切に支援するよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	感謝の日会や敬老会等の行事の際に、ご家族 様をお呼びしたり、可能な場合はご家族の方 に外出支援への参加をお願いしている。面会 時や毎月担当職員からご家族様へご利用者様 の近況報告や写真を送り、ご家族様との情報 共有に努めている。ご家族様希望でお孫さん との繋がりを絶やさないように電話等使用し ている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけの病院や行きつけの美容室など について、ご本人様やご家族様の希望を優先 している。また、馴染みの場所への外出の希望 等があれば実現できるように対応している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは、日頃からご利用者様の人間関係 を把握し、ご利用者様間のトラブルを未然に 防ぐように努めている。また、レクリエー ションなどを通してご利用者様同士で応援な どの声かけが行えるような雰囲気作りをして いる。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	長期入院のために退所された方については、 スタッフがお見舞いに行ったりして交流を続 けている。また、退所された方から併設の特 養への入所希望があればご案内している。特 養へ入所された方については、仲の良かった ご利用者様とスタッフが特養を尋ねたりして 交流を図っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフは、日頃よりご本人様やご家族様と会話の中で希望や意向の把握に努め、希望に沿った生活が送れるように配慮している。また、外出の希望がある場合は、ご家族様と相談し、個別支援にて対応している。把握が困難な方の場合は、ご家族様からの情報や入居前のサービス事業所からも情報を得ている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフは、ご本人様やご家族様からの情報、ご利用者様同士の会話を参考にすると共に、日頃よりご利用者様一人ひとりの生活歴や趣味・好み等の情報収集に努めサービスの向上に努めている。また、スタッフ同士、情報共有に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフは日頃より一人ひとりの生活リズムを理解し尊重している。毎日のバイタル測定や細かな表情を気にかけて様子観察を行い、体調悪化を未然に防ぐよう努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは、計画作成担当や担当スタッフだけでなく他のスタッフからも幅広く意見を募り行っている。意見をもとに担当者会議にてご本人様やご家族様の意見を受け、ご本人様が安全にかつ安心して希望する生活が送れるための介護計画の作成に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録について、キーワードを基に日常の様子など細かい点について、ご本人様の言葉も記入している。また、記録だけでは伝わらない点については、毎日申し送りを行い、口頭にて伝達している。問題点があればその都度話し合いを行い、解決するようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的に面会時間を設けているが、時間外の面会についても柔軟に対応している。買物、外食などの外出支援や年一回の施設全体のバスハイクについてはスタッフの勤務の調整を定期的に実行している。また、ご家族の希望による保険外の支援についても資料提供など行うようしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時の馴染みの病院や薬局・美容室等把握し、入居後も引き続き利用できるように支援している。入居したことにより地域との関係が途切れないように配慮している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては、ご本人様やご家族様に意向を伺い、希望を尊重している。それぞれの主治医と連携をとりながらご利用者様の健康の維持を図っている。また、訪問歯科回診も行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホーム内に看護師は配置されていないが、日々の状態で疑問に感じた場合や急変時の対応・感染症の予防など、必要な場合は併設の特養の看護師に相談し助言を受けている。また、スタッフは訪問看護師と連携をとり一人ひとりの健康管理に努めている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者様が入院した場合、定期的に病院を訪れ看護師やソーシャルワーカーから話を聞き、治療の経過やご利用者様の状況などについて情報を得ている。また、スタッフは日頃の受診付添の中から医師や看護師との関係作りに努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設見学や入居希望の問い合わせ・入居契約時に施設で出来る事と出来ない事についてご本人様やご家族様に必ず説明し納得していただいている。重度化した場合は、主治医に相談し、連携を強化すると共にスタッフ全員が情報を共有している。万が一、当施設で生活が続けられなくなった場合、他施設や病院と連携をとり受け入れ先を探している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各項目でマニュアルを作成している。全スタッフは対応について理解している。施設内にて定期的に研修があり学ぶ場を設けている。また、備品についても点検をするよう心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害対策について施設内にて研修があり学ぶ機会を設けている。また、当グループホームにて火災訓練を実施している。日頃から地域との交流を図っており、災害発生時は協力し合える関係を築いている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常生活の中で声かけなどについて、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。また、スタッフルームにNGワードを提示しており、個人の気持ちを尊重しプライバシーの確保に努めている。個人の資料はカギのかかるロッカーで保管している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様とのコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの想いを引き出すよう努めている。スタッフはオープン・クローズドの質問をしながら、ご本人様が自己決定できるよう支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に考慮しながら、ご本人様の希望に出来るだけ添えるように心掛けている。また、各場面の担当を決め、コミュニケーションをとりながら、より細やかな支援がおこなえるよう配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や身だしなみなどは、居室や別室をご利用していただいている。購入時は、ご本人様の使い慣れた化粧品を使用していただいている。美容室でのカットが難しい方は、スタッフが支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと一緒に野菜を切ったり、盛り付けや片づけ等を行っている。また、季節感を感じていただけるようメニューを工夫したり、個々に合わせたメニューを考え、食べやすさに考慮している。スタッフは、ご利用者様と同じテーブルと一緒に食事をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事が不足しないように、毎食チェックし把握している。不足している場合などは、補助食品やご本人様の好みに合わせ提供するよう努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけ・見守り・介助を行っている。義歯については、就寝前にお預かりし洗浄を行っている。また、週一回の訪問歯科回診があり、相談しながら口腔内の清潔に努めている。希望時は、定期的に歯のクリーニングを受診している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣を把握し、ご利用者様がストレスがなく排泄が行えるように声かけ・見守り・介助をしている。介助の際は、出来るだけ残存機能を活かし、自立に向けた支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して、スタッフ全員で確認をしている。便秘が続かないよう水や牛乳などの水分を多めに接種していただくよう声かけしている。また、便秘が続いた場合は、主治医に相談するなどして改善に努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご本人様の体調を考慮しながら、時間帯など希望に合わせて入浴を行っている。拒否がある場合は、声かけの方法や時間帯、スタッフの交代など工夫し入浴していただけるよう努めている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の体調に考慮するとともに、希望に添って休憩していただいている。夜間不眠の訴えがあった場合は、傾聴を行い一緒に過ごしたり、温かい飲み物を提供するなどし対応している。また、夜間の不眠が続くご本人様の不調につながる場合は、主治医と連携をとり支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった場合は、書面と口頭にて申し送りを行っている。また、変更の情報も共有するよう努めている。体調の変化には十分注意し、変化がみられた場合は主治医に相談し、薬の調整などを行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材切り・盛り付け・片づけなどの料理や外食・買物・散歩・歌など毎日の生活が退屈にならないように配慮している。また、体操・生花・陶芸などの教室を催し趣味活動を続けていただけよう支援している。役割として全体で使用するタオルたたみなども取り入れている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に花見等のバスハイクに外出している。また、買物や散歩・外食などの個別支援を行っている。また、希望があれば猫カフェにも出掛けて動物とのふれあいも行っている。年に一回の遠方へのバスハイクなどは、ご家族の協力を得て一緒に外出もしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設でお預かりしているが、ご本人様が希望された場合は、ご家族に紛失などの危険がある事の説明を十分行って了解を得たうえでお金を所持していただいている。買物の際などはご自分でお支払いをしていただくよう支援している。お金の認識が難しい方は、事故の危険もありご家族様に説明しお預かりするようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は、ご家族様やご友人様に電話をかけていただいている。定期的にお孫さんとの電話の取次ぎも支援している。また、携帯電話をご使用の方については使用時支援している。年始には年賀状を出していただくよう支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアのディスプレイに季節感を取り入れて心地よく過ごしていただけるよう配慮している。また、テレビやCDの音量や室温、光など細やかな部分についてもストレスとならないように気を配っている。トイレは共用で気持ちよく使用できるように清掃にも力を入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外でも談話スペースを設けている。テレビ前や廊下にソファを置き、日向ぼっこや散歩・談話など仲の良いご利用者同士で過ごしていただけるよう工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使用されていた馴染みの家具や調度品・仏壇・ご本人様が作った作品を展示したり、趣味の物等取り入れ自由にご自分の部屋を使用していただいている。また、安全面も考慮し安全バーなども設置している。エアコンの風にも配慮し苦手な方は直接あたらないよう配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様一人ひとりの生活スペースを把握し、各々の部屋の表示をしっかりと目立つよう表示し、個々の動線上に事故に繋がるものがないように配慮している。また、居室などにおいても事故を未然に防ぐための環境作りに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない